

頂きあとは卒論を書くだけの4年生のある日、母に「薬学部に行くならお金出してあげるよ」って急に言われました。その瞬間は絶対無理だと思いましたが、ある日の朝、何か大きなきっかけがあったわけでもないのに薬学部に

進学しようと決めて勉強を始め、無事薬学部に進学しました。

あの日薬学部に進もうと思っていたければ薬剤師になっていなかったし、がんにならなければ仏法を学んで僧侶になっていないし、今こうやってお

話することもなかったでしょう。このようにすべてが今につながっているんだと分かった時、「この人生をどう歩くのか、それだけが私に与えられている課題だ」と気づくことができました。

ていって、話を聞かせてもらいなさい。患者さんの前には薬剤師としてではなく、人として立たないといけません。学問から得たテクニックでは、患者さんやそのご家族にどう接していくことができるのか、分かりませんから。

社会に出たら患者さんやいろいろな人からお話をうかがえる機会はなかなかありません。学生時代にうかがえる機会があるならば、とにかく行きなさい。そして何も分からない私に話してください。ありがとうございますと、感謝をしっかり伝えること。すると、患者さんは本当に思っていることを話してくれたりします。いろいろな世界を見てください。

薬剤師になったら、薬に関する国家資格を持っただけに過ぎず、人間としてはまだ未完成であることを自覚して働きましょう。僕たち薬剤師は薬のことを知っているだけなのです。

患者さんの生きる意味、目的を見つけてあげようと思ってしまいがちです。ですが、見つけようとするのではなく、医療人としてではなく、1人の人間として相手の想いを受け止め、ただ尽くすことが大切なのです。

患者とは人として向き合う 相手の想い受け止め、尽くす

——医療者が患者さんと向き合うときに大切なことを教えてください。

「四苦八苦」という言葉はご存じですか？四苦八苦とは、「生老病死」に加えて、好きな人に会うことができない「愛別離苦」、嫌いな人に会わなければいけない「怨憎会苦」、欲しいものが手に入らない「求不得苦」、心と体が一致しない「五蘊盛苦」のことを指しています。

これらの苦は人間にはどうすることもできません。つまり人間の苦は、自分で悩み苦しんで乗り越えていくしかないものであり、誰も代わってあげられるものではありません。

私たち人間は、予想外の事実

と嘆きます。「なぜ私が苦しまなければいけないのか」「どうしてこんなに辛い状況なのに生き続けなければいけないのか」と嘆きます。薬剤師を始めとした医療人は、この苦しみに対し何かしてあげたいと思います。当然のことです。

苦しんでいる患者さんは、その苦しみを自分で乗り越えるという人生の大きな節目を迎えており、普段考えることのないような、大きな問いの前に立たされています。私たち医療人は、この問いの前に共に立とうとするならば、医療人としてではなく、1人の人間としてのあり方を厳しく問われることになります。

死生観やコミュニケーションを学ぶことで患者さんに寄り添えるのではないかと。こんな風に私たちは、簡単に何かに夢を託そうとします。ですが、現実はそのように簡単なものではありません。じゃあ私たちに患者さんの苦しみを取り除くことは無理なのか。このように考えた時、大切になってくることは、現実を投げ出さずに小さいことでも何かをやり続けることです。

——薬学生に向けて何か伝えたいことはありますか。

学問を学んでいる最中の学生は特に、何かを学んだら、身に着いたら、目の前の患者さんに何かできるのではないかって思うでしょう。ですが、死を前にしては、学んだこと、身に着けたことをツールにすることはできません。ですから、学問だけでなく、人が生きている、暮らしているところへ出

多くの高齢者が患っている関節疾患に、変形性関節症があります。軟骨と、その周囲組織の損傷を伴う慢性疾患で、手、指、膝、腰などの関節痛や、運動機能の障害をもたらします。変形性関節症による疼痛や機能障害に対して、運動療法や理学療法の有効性を報告したエビデンス(臨床研究の結果)は多数あります。しかし、実際の臨床現場においては、適切な運動療法や理学療法が、患者に提供されていないことも珍しくありません(PMID:25952353)

このように、質の高いエビデンスが報告されていたとしても、医療者の臨床行動(プラクティス)に反映されていない状況を「エビデンス・プラクティス・ギャップ」と呼びます。理学療法や運動療法に限らず、薬物療法においても、このようなギャップが散見されます。

例えば、罹病期間の長い2型糖尿病治



医療法人徳仁会中野病院薬局
青島周一

これから「薬」の話をしよう

実装科学とは何か？

療患者に対する集中的な血糖コントロール(HbA1c値6%未満)の有用性について、2008年に否定的なエビデンスが報告されています(PMID:18539917)。しかし、米国内科学会が、多くの2型糖尿病患者に対する血糖コントロール目標を、HbA1cで7~8%に設定したのは2018年でした(PMID:29507945)

エビデンスとプラクティスのギャップを短縮するためには、最新のエビデンスを医療者の臨床行動に積極的に実装していく必要があります。このように、エビデンスを日常臨床に体系的に取り入れることを促進し、医療サービスの質と有用性を向上させる方法論を、実装科学(implementation science)と呼びます。

実装科学が注目されるようになった背

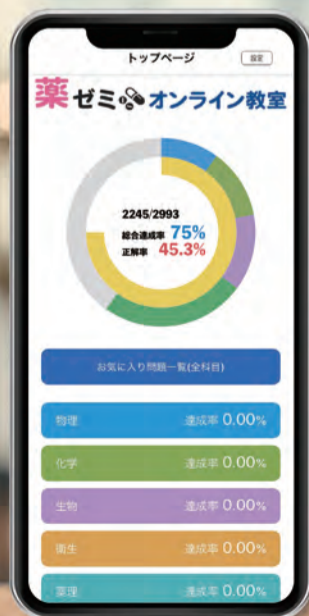
景には、質の高いエビデンスと云えど、その情報が医療者の臨床行動に実装されるまで、平均で17年もの歳月がかかるという事実です。そもそも、実装されないエビデンスも少なくありません(PMID:26376626)。そういう意味では、新型コロナウイルス感染症に対するプラクティスは、エビデンスが極めて迅速に社会実装された異質な例と言えるかもしれません。

もちろん、エビデンスが示している治療法が、必ずしも人の生活を豊かにするとは限りません。ただ、医療サービスが科学的合理性の上に構築されていなければ、いわゆる「トンデモ」と呼ばれるような医療行為との境界線が曖昧になってしまうでしょう。

FREE

いつでも薬ゼミ
どこでも薬ゼミ

薬学生 全学年対応



薬ゼミ
アプリ
Yakuze Seminar

download on the
App Store

Google Play
で手に入れよう

学校法人 医学アカデミー
薬学ゼミナール